長谷で暮らす人と人をつなげる

長谷（はせ）みらい広場 VOL.6

2024年5月発行
発行：溝口未来プロジェクト
住所：伊那市長谷溝口430-1　TEL/FAX：0265-98-2015
E-MAIL：mizokuchi.mp@gmail.com　http://blog.livedoor.jp/mizokuchimp
委員 編集　中山勝司、中山友悦、中山幾雄、倉田みちる、高橋隆文、橋爪勇志、羽場友理枝、坂野心一朗、松井博、宮川沙加、伊藤小百合

「長谷みらい広場」は、伊那市田舎暮らしモデル地域事業交付金を活用して発行しています。

演目「奥州安達原三段目（おうしゅうあだちがはらさんだんめ）袖萩祭文の段（そでぎさいもんのだん）」のクライマックス
貞任（さだとう）と宗任（むねとう）兄弟の見せ場

中尾歌舞伎

長谷が誇る伝統芸能といえば中尾歌舞伎。その中尾歌舞伎を守り演じているのは中尾歌舞伎保存会です。中尾歌舞伎保存会代表を務める中村徳彦（のりひこ）さんに、活動を伺いました。

中尾歌舞伎保存会とは

今年で37年目を迎える同会は、現在約35名の会員が在籍しています。演者・裏方は会員が代わる代わる務め、春の定期公演と依頼された時に公演を行っています。

初代会長を加藤智明（かがちあき）さん、二代目会長西村簪（ひさし）さん、三代目会長を西村寿（ひさし）さんが務め、コロナ禍で数年活動を休止していましたが、西村簪さんが代表を務め活動を再開し、現在は中村徳彦さんが代表を務めています。演目数は9つあり、毎年順番に演じています。

元は中尾の人たちで始まった保存会ですが、今では伊那市内だけでなく県外の登録者もいるほどになっています。

活動を再開した際に、松田泰俊（やすとし）さんが会長を務める信州伊那中尾歌舞伎後援会も立ち上がり、観客含め中尾歌舞伎を支え繋いでいます。

中尾歌舞伎のこれまで

歌舞伎が中尾に伝わったのは江戸時代の明和4年と言われています。旅芸人が山神を祀る神社で奉納として演じ、それを村人が教えてもらったのが始まりだそうです。娯楽が少ない時代、祭りは唯一の楽しみの場。祭りで演じられた歌舞伎は中尾の芸能として根付きましたが、戦争を機に上演されなくなり、神社にあった舞台も昭和40年に取り壊されてしまいました。

復活したのは40年ほど経ってから。当時長谷村役場で働いていて、青年会にも所属していた中村徳彦さんを中心に動き出しました。

「市野瀬で太鼓の会が始まったのを聞いて、我々も中尾のためになることができないかなと考えていたところ、歌舞伎と出会いました」と中村さんは振り返ります。

その当時、中尾に残っていた中尾歌舞伎の師匠は、小松武志（たけし）さんと西村清典（きよのり）さんの二人（※二人とも現在は故人）。歌舞伎未経験だった集落の若者が中心となり、「中尾歌舞伎保存会」を立ち上げて経験者の二人に指導を仰いだほか、カツラは師匠たちに毛糸で作ってもらい、初舞台をしたそうです。「演者も歌舞伎のことを分からず、師匠を怒らせたこともありました。初舞台は小学生の学芸会のようなものだったと思います」と中村さんは言います。当初は1年で終わるつもりでしたが、中尾の人たちが復活を喜んでくれたので続けることになったそうです。「10年くらいしてやっと歌舞伎というものが満足感を持つものになって、やっと楽しさがわかってきました」と中村さん。

客席との一体感も中尾歌舞伎の魅力

だんだんと「中尾歌舞伎」の名が大きくなり、復活から12年経った平成8年に、公民館兼芝居小屋の『中尾座』ができました。舞台はコンパクトな芝居小屋を探して愛知県にある明治村の芝居小屋を参考にしたといいます。当時は、集落のお葬式も公民館で行っていたため、公民館・斎場・芝居小屋という機能を兼ね備えた建物になりました。こけらおとしには、歌舞伎役者の十二代目**市川團十郎**さんを迎え、長谷村としても大ニュースになりました。

農村歌舞伎のおもしろさ

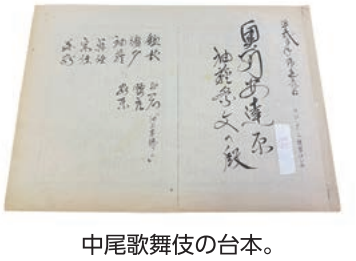
農村歌舞伎のおもしろさは、客席との一体感。観客はおひねりを投げたり、名前を呼んだりしながら一緒に場の雰囲気を盛り上げます。プロの歌舞伎では声掛けなどの場所もある程度決まっているそうですが、農村歌舞伎は自分で「いい！」と思った時に反応していいそうです。また、女性が出演しているのも農村歌舞伎ならではの特徴です。

約二五〇年の歴史の先に

「『伝統芸能の保存』という言葉はなんて大げさなのだと感じました。約250年の歴史がある中尾歌舞伎を演じることは、大変だけど、そのやりがい・味わいはやった人にしかわからない奥深さがあります。続けることを第一に、これからも来てくれた人により楽しみ、感動してもらえるように技を磨いていきたいと思います」と中村さん。

形が受け継がれ、伝統を守ろうとその時々の人が感じ考えながら演じていく舞台。暮らしの中に息づく歴史の片鱗を見せてくれるのが、中尾歌舞伎なのだと感じました。

（文・羽）



中尾歌舞伎の台本。
昔の人が書き写しながら伝わってきたものが今も元になっている

中尾歌舞伎 いつ観られるの？

毎年4月29日（昭和の日）、長谷中尾の「中尾座」にて公演されます

事前申し込みは必須。令和6年度は会場へ行けない方のために、You Tube Live配信の他、「道の駅南アルプスむら長谷」と「伊那公民館」でパブリックビューイング（生中継）を予定。

※信州伊那中尾歌舞伎後援会には年5,000円で入会でき、春の公演会入場券が贈られます。

地域と人をつなぐ

ここでは、長谷にどんな人が住んでいるのかをご紹介します。

※年齢、学年は取材時のもの

長谷で繋がる心と生活

長谷で生まれ育ちました

松田（まつだ） 元伸（もとのぶ）さん(46)・麻衣子（まいこ）さん(41)
泰生（たいせい）くん(9)・かえでさん(8)・みなみさん(5)
［ 長谷溝口 ］

溝口、常福寺の副住職でもある松田さんご一家を取材しました。

元伸さんは東京生まれ。教員をされていたお父さんの関係で小・中学校は県内を転々とし、高校入学から長谷での生活がスタートしました。大学を卒業後しばらく東京で仕事をし、29歳のときに家業の常福寺を継ぐためにUターン。地域を知るために長谷村役場に入りました。現在は伊那市教育委員会に勤務されています。

麻衣子さんは非持生まれ。大阪の短大を卒業後親元に戻り、2年間栄養士として働いた後、長谷村役場に勤務し元伸さんと出会いました。

泰生くんは長谷小の4年生（令和5年度は男6人、女4の計10人）。参観日では素晴らしい歌声を披露してくれました。とても元気な4年生たちです。泰生くんの大好きなのはテレビゲームです。

かえでさんは長谷小2年生（男6人、女3人の計9人）。運動会ではかけっこ等、活発な様子でした。11月には中尾歌舞伎の公演で、子役を見事に務めました。

みなみさんは長谷保育園「そらとぶくじら」の年中組。この組は15人と長谷としては大人数です。最初は少し恥ずかしがっていましたが、元気にお姉ちゃんと遊んでいました。

元伸さんは教育委員会で保健と給食を担当しています。今、学校給食は各地で合理化のため集約化が進められているそうです。しかし3～4倍のコストが掛かるとしても、食材提供者やつくり手の顔が見え、地域に繋がる食育を理念に、地域ごとの給食センターを維持していくことを伊那市の方針としているとのこと。温かい給食が子供たちに提供されています。

長谷の生活について、車は必要だけれど、買い物、病院等に不便は感じていないとのこと。そして学校教育については、一人ひとりが活躍していて、少人数教育のメリットの方が大きいと話します。

長谷の良さ、住み易さ、そして長谷に住む人の温かさを再認識しました。

（文・勝）

職場から始まった長谷暮らし

長谷で生まれ育ちました

松本（まつもと） 裕貴（ゆうき）さん(42)・麻衣子（まいこ）さん(44)
兼拓（ともひろ）くん(13)・修宗（まさむね）くん(10)
［ 長谷非持 ］

非持にお住まいの松本家を訪ねました。

裕貴さんは駒ケ根市出身。平成20年から長谷非持の特別養護老人ホーム「サンハート美和」に勤務し、駒ケ根から通勤していました。いろいろと悩みながらも仕事を続ける中、同じ職場に勤務していた麻衣子さんとの出会いがありました。麻衣子さんの実家は「サンハート美和」の近所。麻衣子さんの実家のすぐ近くに夢のマイホームを建てることができました。

当時、裕貴さんは、身の回りの人間関係に疲れを感じていたそうです。「サンハート美和」に勤め始めた頃は仕事に馴染めず、職場の近所にあるベンチで缶ジュースを飲みながら寝転がっていたところ、突然「こんにちは！」と長谷中学生に挨拶されました。思わず「ありがとうございます！」と答えてしまったそうです。普通に人々が挨拶し合える日常はなかなかないですよね。長谷ってそういうところです。

小中学校の少人数学級にしても、地域にしても、街場で感じていた人間関係の問題やもめごと等のストレスが無い事が長谷の良いところ。老人ホームの仕事場でも、障害のある方に対しても、皆が心優しく接しているとのことでした。

裕貴さんは、現在は美篶の特別養護老人ホーム「四恩の家」に勤務（取材時）、麻衣子さんは「サンハート美和」に勤務。長男の兼拓君はサイクリング自転車に夢中の中学2生。小6の修宗君はお父さん、お兄ちゃんと一緒に手良のサンプレイフィットネスセンターで筋肉トレーニングに励んでいます。

ご両親とも変則勤務で、なかなか家族四人が顔を合わせるのが難しいところ、ピンポイントで取材をさせていただきました。

（文・勝）

夢と自然を追い求めて

移住してきました

余語（よご） 宏紀（ひろき）さん(27)・築山（つきやま） 栗子（くりこ）さん(28)
［ 長谷黒河内 ］

2022年10月に長谷黒河内に移住された余語宏紀さんと築山栗子さんご夫婦をご紹介します。

お二人は一緒に生活を歩む中で長野にたどり着き、空き家バンクを通して黒河内の空き家を購入し移住されました。

長谷に来たきっかけは、栗子さんのアトピーが悪化したため。栗子さんは台湾とタイ国の女子ゴルフツアーに参戦していた元プロゴルファー。2021年に選手としての活動を中止し、現在は国内ツアーで通訳・運営など裏方で業界に携わっています。

宏紀さんは2019年に人力車の仕事を一時休業して、5ヶ月間、自分が運べるだけの荷物と食料を背負い、カナダからメキシコまで4250㎞の山脈の道のりを自分の足で歩いてアメリカ大陸を縦断したとのこと。

海外で経験した自然との調和を感じられる長野で、2人で共にこれから生活をすることにワクワクしているそうです。

黒河内の空き家は、入居の翌春に自分たちで内装の解体を始め、現在までにリビングとキッチンが完成しました。リビングの床と壁には箕輪の有賀製材から購入した赤松を使いおしゃれなカフェ風の空間に。キッチンには機械を地域の方々から借り、助けを貰いながら自分たちで土間を打ちました。2人は職人ではないけれど、宏紀さんは以前、便利屋で様々なスキルを手に入れていて活用できたようです。

これからは地域と繋がって、自然と共に生きていくのが目標。今後の予定は未定だけれど、自分達が思いっきり楽しめば、周りも楽しくなると考えているというお二人です。

（文・勝）

長谷で見つけた家族の幸せ

移住してきました

髙橋（たかはし） 隆文（たかふみ）さん(45)・千穂（ちほ）さん(41)・日々絆（ひびき）くん(3)
［ 長谷溝口 ］

2022年4月に千葉県柏市から長谷へ移住した髙橋さん一家。

息子の日々絆くんの病気がきっかけで自然豊かな子育て環境を探し移住活動をはじめ、長谷保育園のオンライン見学などを経て、現地を視察。景観の良さ、人のあたたかさに触れて長谷に決めたそうです。

日々絆くんのふるさと創りと、農ある暮らしの実現の為に移住当初から「さんさん農園」に通い、学んだことを活かし家庭菜園も行っています。

髙橋家が思う長谷の魅力は、先輩移住者も地元の人も移住者にウェルカム（歓迎）なところ。色々なことを教えてもらえたり、お野菜などのお裾分けをもらえたり、人のあたたかい繋がりができました。「プライベートの距離感が心地良いです。何より地域の方が子どもに優しく、伸び伸び育てられる環境で、長谷に来て本当に良かったです！」

隆文さんは、移住してから中尾にある㈱ワッカアグリで仕事をスタートし、現在はまちづくり事業部の一員として働いています。そして2023年4月からは伊那市の地域創造課で集落支援員として地域ブランドの活動も始まりました。千穂さんも自宅の近所で介護職員として働き家族全員が長谷を中心に生活できるようになったと笑顔で話します。

今後は、日々絆くんや同じ世代の子どもたちにとって魅力的なふるさとづくりに参加したいそうです。「地域の人たちと共に長谷を盛り上げれるように、大好きな長谷の魅力を伝え、子ども達と長谷フェスなど一緒にまちづくりをしていきたいです！」

（文・羽）

わたしの好きな場所

長谷でお気に入りの場所を
教えていただきました。

大村（おおむら） 妙子（たえこ） さん(67)［長谷溝口］

平成7年、伊那市へ大阪から主人の転勤で引っ越す。
平成10年、溝口中山組赤坂に移住定住、二男二女を育てる。現在夫と二人暮らし大阪生まれの大阪育ち。
長谷に住んで25年。ここが一番のふる里です。

溝口中山組のしだれ桜とハナモモ

しだれ桜とハナモモが咲く丘

私の好きな場所は、溝口中山組のしだれ桜の見える場所です。昔、組の白山（しらやま）堂が横にあったそうです。白山堂は今は下方に移動しています。現在の白山堂の周りにもコヒガンザクラがあり、春には組のお花見が行われます。しだれ桜は大きな大きな桜の木です。初めて花の咲いている姿を見たとき赤毛のアンの一場面を思い浮かべてしまいました。アンが、窓の外の桜の木に「雪の女王」と名づける場面です。花をいっぱいつけた桜の木は、華やかで風に揺れる枝は女王様のドレスの裾のようでした。満開の時も素晴らしいですが、花の散る時も素敵です。

風に揺れそれと共に花びらが風に舞います。花びらは風に乗って遠くまで飛んでいくのです。花が終わると緑の葉が茂り、その姿も凛として素敵です。秋の紅葉、沢山の葉が色づき風に揺れ赤いドレスをまとったようです。冬の桜一本一本の枝が青い空を背景に浮かびます。四季折々いろいろな姿を見せてくれる桜の木、私は毎朝、新聞配達をする時この下を通り、声をかけます。「今日はどんな日でしょうか？」。

最近気になっている事があります。枯れた枝が増え木に勢いがないことです。年をとってしまうのは仕方ないことですがいつまでもここで咲いてほしいと思います。

しだれ桜も素敵ですが桜の木の横を登った所。山際にハナモモ園が誕生しています。中山組の有志の方々が植えたハナモモが昨年春頃より素晴らしい花を咲かせています。

地域を支える買い物支援

移動スーパー「とくし丸」

「とくし丸」は買い物困難な方々に、日々の食材、生活必需品をお届けしています。
昨年5月に「とくし丸」を引継ぎ、長谷、高遠地区のために奮闘中の春日九志さんをご紹介します。

「とくし丸」とは

「とっくとっくと～く♪とくし丸～♪」軽快な音楽を鳴らしながら山間を走る軽トラックの「とくし丸」。

創業者の住友達也氏は、平成24（2012）年1月に徳島市で、山間部に住む老いた両親のことを思って買い物支援事業を立ち上げました。地元のスーパーと提携し、改造軽トラックに食材を積み込み、買い物困難者に届ける事業です。

長谷地区では平成29年（2017年）12月、筆者（当情報誌編集委員の中山勝司）が、地元スーパーのニシザワ高遠食彩館と提携し、「とくし丸」を稼働しました。当時は全国で250台が稼働していましたが、7年後の令和6年2月の稼働台数は1170台。全国各地で買い物困難者のために「とくし丸」が活躍しています。

事業の引き継ぎへ

令和5年（2023年）5月、高遠町在住の春日九志さんが事業を受け継いでくれることになりました。春日さんは以前ニシザワにお勤めでしたが、高齢化の進む高遠、長谷地域で「とくし丸」が必要で、事業としてもやりがいがあると思い、地域のために働く決心をしてくれました。

「とくし丸」の業務

お客様には午前11時頃から午後5時頃の営業ですが、朝8時からの積み込み、帰店後は売上処理、積み下ろし、店への商品の戻しと、売れたものの補充を行います。翌日の注文取りや、注文品の積み込み準備等々で、作業終了は夜7時をまわります。

春日さんはスーパー業務の経験があり、商品のことはわかるので、「とくし丸」の仕事は問題ないと思っていたそうですが、やってみると全然違ったそうです。スーパーでは不特定多数のお客さんですが、「とくし丸」は個々の要望に対応しなければなりません。「○○さんはいつもこれを買うな」「□□さんの特注品を忘れないようにしなきゃ」等々、お客さん一人ひとりの顔を思い浮かべながら、朝の積み込みを行っています。

地域に根差して

「とくし丸」は屋外業務です。真冬は極寒、真夏は酷暑との我慢比べ。大雪や台風で警報が出るほどになると運休しますが、それ以外は雨、雪の日も風の日も、炎天下でも営業します。お客さんが買い物を楽しみに待っています。生活を続けるために頼りにされて待っています。待っているお客さんのためにも、毎日頑張って「とくし丸」は走り続けます。

運転の負担を減らし生活を便利に

長谷、高遠地区は、車がないと生活に困るので、ご高齢でも免許を返納しない方が結構います。

少しでも運転機会を減らすためにも、「とくし丸」の利用をおすすめします。

高遠食彩館「とくし丸」春日号
春日（かすが） 九志（ひさし） さん（53）
［高遠町小原］

「とくし丸」の巡回スケジュール

月曜日	非持高齢者住宅→東高遠→長藤→高遠本町
火曜日	非持→溝口
水曜日	黒河内→三義→西高遠
木曜日	非持高齢者住宅→東高遠→藤沢→長藤
金曜日	中尾→杉島→市野瀬→高遠横町

お問い合わせ：ニシザワ高遠食彩館（TEL.0265-94-1055）

上欄のとおり、ニシザワ高遠食彩館の東側全域をカバーし、のべ客数は200人くらいになります。

若い人と同居されている方も、ご自分の好きなもの、食べたいものを選んで買い物を楽しむことができます。歩くのが辛い方も、軽トラックを一周するだけで買い物ができます。欲しいものは春日さんがご用意します。

長谷・高遠の暮らしを支える、移動スーパー「とくし丸」を是非ご活用ください！

（文・勝）

買い物の様子

伊那市の公共交通（ドアツードア乗合タクシー）

ぐるっとタクシー

利用状況はどうなんだろう？

車がないと社会生活が成り立たない環境の中、車が普及して乗合バスの利用者が減少するという状況で、公共交通をどのように維持するかが大きな課題となっています。伊那市では新たな「地域の足」として『ぐるっとタクシー』を導入し、高齢者や障がい者の移動手段の確保に努め、伊那市全域で運行を開始して３年が経過しました。

直近２年間の利用状況を見てみると、ほぼ横ばいか微増で推移しています。1 日当たりの利用者数は 120 人前後で、現在 12 台の車で運行していて、1 日 1 台当たり約 10 人を移送しています。

利用者に聞きますと、予約が取れないこともあり、現状のサービスでは能力一杯の状況にあると思われます。

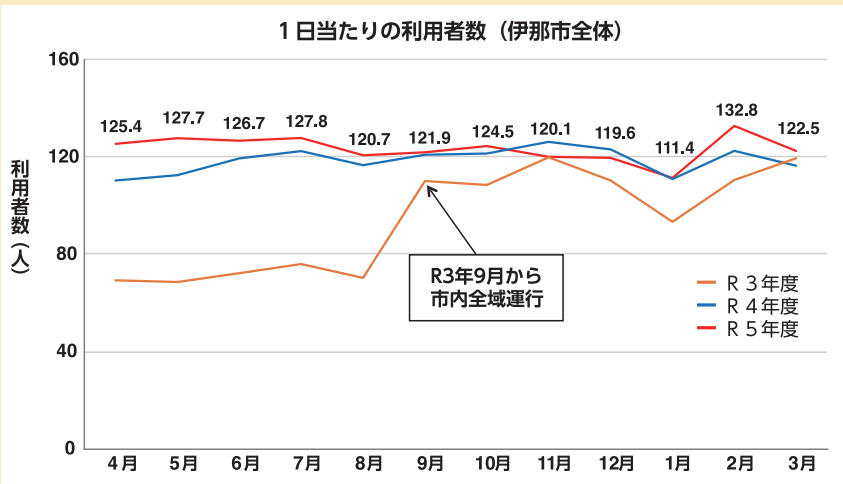
その内、長谷地区を含む東部ブロック＜注 2＞は 1 日当たりの利用者数が 30 人弱で、４台の車で運行しているので、1 日 1 台当たり約 7 人になります。伊那市中心部から遠い当ブロックは、移動に時間がかかるため、伊那市平均に比べると利用者数が少ない状況が見られます。

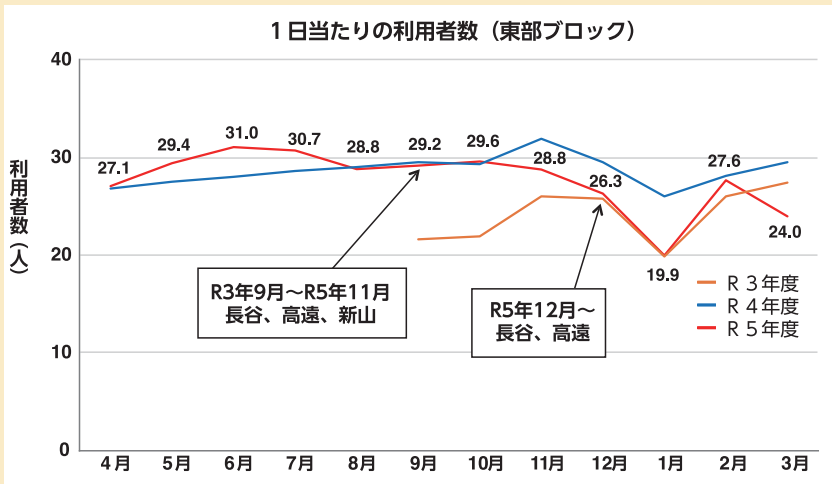
『ぐるっとタクシー』は伊那市にとって、なくてはならない公共交通です。家の玄関先から目的地まで運んでくれる（ドアツードア）、便利な移動手段です。ぜひ皆で有効に活用して、よりよい公共交通システムにしていきましょう！

（文、グラフ作成・坂、勝）

ぐるっとタクシー利用者数の推移＜注1＞

	伊那市全体			内　東部ブロック		
	年間累計	月平均	1日平均	年間累計	月平均	1日平均
R3年度	22,604人	1,884人	94.0人	ー	ー	ー
R4年度	28,575人	2,381人	118.6人	6,906人	576人	28.6人
前年比	126%		126%			
R5年度＜注3＞	29,485人	2,457人	123.4人	6,632人	553人	27.7人
前年比	103%		103%	96.0%		96.6%





注 1）データ：伊那市役所企画政策課企画政策係　分析：長谷みらい広場編集会議
注 2）東部ブロック：長谷、高遠（令和５年 12 月以降）、変遷はグラフを参照。
注 3）東部ブロックは R5 年 12 月から新山地区が除かれ、利用者数が減少している。

長谷フェス

南アルプスふるさと祭り

コロナ禍を経て、４年ぶりの開催！

2023年11月5日、コロナ禍で中止が続いていた「長谷フェス～南アルプスふるさと祭り」がリニューアルし、道の駅南アルプスむら長谷と南アルプス公園で開催されました。晴天にも恵まれて県内外から約２５００人の方が長谷の紅葉を楽しみながら沢山食べて遊んで、にぎやかな1日となりました。

会場内は三つのエリアに分かれ、道の駅エリアは農業法人ファームはせの「食の感謝祭」と同時開催し、「長谷の食」をテーマに、そば、長谷汁、ジビエのふるまいや美和ダムカレー、ホロホロ鳥などが出店しました。行列になる程大盛況で長谷の食の魅力を堪能してもらえる時間となりました。

当日配布のフライヤー。出店ブースは20店を超えた

会場内は三つのエリアにはキッチンカーが５店舗立ち並び、南アルプス公園エリアでは親子で楽しめる「体験コーナー」や「音楽発表」などが行われました。発表には長谷小学校・中学校や長谷太鼓創龍会、ざんざ節保存会が演奏を披露しました。

体験コーナーではヤギとのふれあいや、干し柿づくり、リース作り体験、マウンテンバイクなどの体験があり、長谷中学校は出張長谷の縁側としてストラックアウトなど子どもが楽しめるゲームを用意してくれていました。

来場者からは、「老若男女、幅広い世代の方が出店しているのが長谷らしいね」という声が聞こえ、長谷の子どもたちは「長谷にこんなに沢山、人がいるのが凄い！」とイキイキ、楽しんでいる姿が見られました。

「祭り」をきっかけに長谷にゆかりのある人や長谷出身の方が子連れで来てくれて「同窓会の気分を味わえた」と再会が生まれる場所ともなり、これぞ“ふるさと祭り”でした。

長谷のパワーを感じる素晴らしい1日になったのではないでしょうか。

（文・羽）

おしらせ

令和６年度、溝口区内の移住お試し住宅（期限付き）に３家族が入居されました。長谷地区に居住を希望されており、空き家物件を探しています。

空き家情報がありましたら、溝口未来プロジェクトまでご連絡願います。

連絡先

☎ 0265-98-2015

090-9664-6132

mizokuchi.mp@gmail.com